

広報せとうち 7

令和 2 年
月号

絆で創る、魅力あふれる豊かな町づくり | みんなで早寝、早起き、ラジオ体操、朝ごはん！

7 月の特集

地域おこし協力隊 小林光一さん卒業



Pick up—注目記事—

- 古仁屋高校「清雲寮」完成！ 02
- 加計呂麻島「島の保健室」活動報告 02

もくじ—information—

- 教育コラム「めばえ」 03
- 7 月のお知らせ 06
- まちのできごと 21
- 古高だより 22
- 7 月休日当番医のお知らせ 23
- 今月の独り言 24
- 『いくつになってもピーマンだけは…』 24

まちの人口と世帯 | 住民基本台帳 令和 2 年 5 月末

人口 | 合計
8,859 人 (前月比: - 6)

人口 | 男
4,336 人 (前月比: - 6)

人口 | 女
4,523 人 (前月比: ± 0)

世帯数 | 合計
5,273 世帯 (前月比: - 8)

古仁屋高校「清雲寮」完成しました！



・古仁屋高校女子寮（清雲寮）施設概要

【施設名】	清雲寮（せいうんりょう）			【構造】	木造平屋
【敷地面積】	827.25㎡	【延べ床面積】	357.37㎡		
【駐車場】	自動車（軽自動車含む）	7台			
	10人乗り自動車	1台			
	駐輪場	10台			
【総事業費】	1億2千040万円				

・寮室（10部屋）、共有スペース、寮監室、コーディネーター室、ゲストルーム、共有トイレ、共有ユニットバス、共有洗面、中庭（芝生）、ウッドデッキ、洗濯干し場

加計呂麻島

「島の保健室」活動報告。



令和元年度活動実績

相談内容	件数
医療	54
介護	9
障害	1
経済面	1
合計	65

加計呂麻島に「島の保健室」が開所して、6月で3年目になりました。「チームせとうち我が事・丸ごと支え愛事業」の一環として、困りごとの解決サポートをしています。少しずつ加計呂麻島住民の方には、声をかけてもらえるようになりましたが、もっと知ってもらえるように、活動を紹介したいと思います。

困りごとの解決サポートは、私が看護師であるため、医療面での相談が多くなっています。「ケガをしたけど、病院に行った方がいい？」「転んだけど大丈夫かな？」や「検査結果について教えて」と様々な内容です。医療面以外の相談ごとでは、役場や地域包括支援センター、社会福祉協議会など各専門機関と連携し、問題解決に向けたサポートをしています。

島の保健室に来ていただいておりますが、電話をいただければ加計呂麻島内どこにでも伺います。また、困りごとは1回の面談では解決しないことがほとんどです。困りごとの内容に合わせて、訪問や連絡を定期的に行い、安心して生活ができるように声掛けも行っています。

2020年3月からは、役場窓口代理申請業務も開始しました。平日仕事で役場に行けない方、役場まで遠くに行くのが大変という方からのご依頼がありました。どんなことでも、まずは電話でご相談ください。一人でも多くの人に寄り添って支援していきたいと思っています。



7月248号

めばえ

今月の担当者
古仁屋小学校
附属幼稚園より



～子どもの「遊び」は幼児期にふさわしい「学び」である～

幼児期になると、何でも自分でやってみたいという気持ちが芽生え、様々な環境（物的・人的・空間的）に関りながら遊ぶことができるようになります。

また、子どもは遊ぶことで、その人生において大切なことをたくさん習得できるといわれ、自由に遊んでいるうちに、生きていくために必要な様々な力を体で吸収していきます。

昨今、勉強はできるけど、問題解決能力やコミュニケーション能力が欠けている子が増えているそうです。その問題を解決するカギとなるのは「幼児期の遊び」にあるといわれ、世界でも今、「遊び」に注目が集まり、これからの時代を生き抜くために、「遊び」の重要性が見直されてきています。ポイントは「自分の興味があることに夢中になって遊んでいるか」ということです。



《 人間関係も「遊び」の中で育つ 》

- ・「ごっこ遊び」は、コミュニケーション能力を身につけるためのよい遊びです。お友だちと一緒にごっこ遊びをすると、相手の考えにも合わせることが必要となり、協調性が育まれたり、自然と協力できるようになります。また、自分の考えていることを相手に伝えたり、相手の気持ちにも気づいたり、社会のルールを学ぶきっかけとなります。
- ・「戦いごっこ」は、遊ぶ時の力加減や他人の痛みを理解することを学ぶことができます。

《 非認知的能力も子どもの主体的遊びの中で育つ 》

- ・非認知的能力とは目標に向かって頑張る力、他人とうまく関わる力（優しさ・思いやり等）、感情をコントロールする力で、IQ 等では測れない内面の力のことをいいます。目に見えて知的に賢くなったと感じる認知的能力を重視しがちですが、大事なことは、うまくいかないときに諦めず、目標達成まで頑張る姿勢を身につけることです。我慢できること、感情をコントロールする力も大切です。非認知能力は、子どもの主体的な部分を大切にし、させられるのではなく自分からやっていく中で育っていきます。

ここで、今一度、「遊び」の重要性を見直し、子ども達が主体的に遊びこむ中で、「これからの時代を生きていく力」を育てていけるよう、私たち大人がサポートしていきましょう。



8月の担当は高丘保育所です。

教育委員会社会教育課生涯学習係
岩永由希子 ☎0997-72-2905



成、修正なども行わせてもらいました。

—おすすめの野菜（作物）などありますか？（任期中思いの深い作物等）

バナナですね。子供も大好きだし、かぶ分けして増やしやすくてリーズナブル。ただ、風に弱いという点と、イノシシが食べてしまうのでその対策が必要になります。

そして、たんかんです。やはりたんかんはとても良い果樹だと思いました。瀬戸内町の宝ですね。とても美味しいし、奄美の温暖な気候にもとても合っているように思います。

あと、思い出の深い作物といったら外せないのがお米です。福岡正信さんという自然農法家がいる、その人に憧れて、ずっと二毛作（米と麦）がやりたくて知之浦の田んぼをお借りしました。そこは30年ほど使われていない田んぼで荒れに荒れていました。長年使われていないというだけあって、開墾は全部手作業（草刈り以外は主にスコップと鍬と手）でとても大変でした。何度と出会う障害に何度くじけそうになったか。でもあの田んぼをここまで生き返らせることが出来たということに達成感もありましたし、田んぼをみていると生命を感じ、自分も生き生きできますね。

田んぼではお米の他にも、マコモや田芋、レンコンなど植えております。去年は体調を崩して田んぼに行けぬ間にイノシシにマコモ、田芋がほとんど食べられてしまいました。やはりイノシシ対策は必須ですね。

その他、奄美大島原種みかんはとても可能性があると感じました。特にクサハは香りがとても良いため色々な加工品ができそうだと思います。

コーヒーができるのも魅力的でした。コーヒー需要は底なしなので国産のコーヒーが提供出来たらいいなあと思は膨らみます。奄美大島は宝の島ですね！

—今後の抱負や、卒業後の目標を教えてください。

できるだけ原点回帰したいと思っています。消費する生活から循環させる生活。使えるものは使う。なるべく環境に負担をかけない暮らしを意識したいです。無から“有”を生み出す。すべての命に感謝し、考える。そして種をつなげる活動。お金を使わずともできることがあります。ないからこそ知恵が生まれるとおもいます。効率さが良いものを生むとは限りません。といいつつもバランスが大切だと思うので自分なりの“温故知新”を考えていけたらと思います。

そして今、瀬戸内町に住んでいる先輩方のように地に足を

つけて根付いていけたらと思います。先輩方が何十年、何百年と築いてきた歴史、文化があります。そこに新しい風を送り込もうとするのであれば、やはりここに少しづつ根をはって生活していくことが大切だと思っています。

農に関していえば、少量多品目栽培、田んぼといった自給農プラス^{アルファ}αといったことをやりたいと思っています。

卒業後は、学校のICT支援・プログラミング教育などの仕事を精一杯やらせてもらいつつ、IT関係の仕事を開拓していくという目標ももち、自分の大切にしている『農』をおこなっていけたらと思います。

—小林さんにとって瀬戸内町はどのようなまちですか？

島全体が家族！そんな印象です。家族のように付き合う、考える、助け合う、そんな島だと思います。奄美では結いの精神を大切にする文化が今も残っていてとても良いところだと思います。昔の日本はこのようにつながりを大切にして成り立っていたのではないのでしょうか。

—最後に三年間の活動を振り返ってみて感想をお願いします。

あつという間の3年間でした。活動を通してとても多くの人にお世話になりました。本当にありがとうございました。多くの方のお陰で奄美大島、瀬戸内町、加計呂麻島のことを知ることができましたし、島の文化、生活、農産物などを勉強させてもらいました。

ここはとても自然豊かですし、多くの可能性がある島だとも思います。個人的には人の住める家をもっと増やしたり、改装したりといったことにもう少し力を入れるべきだと思います。今のままではどんどん住む場所がなくなるし、人も少なくなる。仕事に力を入れるのはその次だと思います。まずは住民を増やす。仕事がないなら「無」から「有」を創り出す。そのためには自給農というライフスタイルが大切だとも思うのです。そのような暮らし方をしたい人は多くなってきていると思います。そして、子どものいる家族をIUターン含めて呼ぶことが大切だと感じます。やはり子どもの声は活力になるし、未来への希望へと繋がります。

地域おこし協力隊は卒業となりますが、これからが本番だと思っています。ここからが新たな移住1年目といった気持ちもあり、心機一転頑張っていきます。みなさま、今までありがとうございました。そしてこれからもどうかよろしくお願いいたします！

—お忙しい中快く取材を受けていただき、ありがとうございました。そして、これからも宜しくお願いします！



時には趣味のサックスを披露したことも♪

小林光一さん卒業

地域おこし協力隊



「無から有を生み出す
すべての命に感謝する」

Profile.

小林 光一（こばやし こういち）

瀬戸内町地域おこし協力隊

2017年7月就任

2020年6月退任

群馬県吾妻郡出身

趣味：音を聞くこと

奏でること

特技：サッカー

以前レコード屋や SOUL BAR
で働いていたことがあり、レ
コードが好きです。見るだ
けで楽しい。（笑）

地域おこし協力隊を ご存じでしょうか？

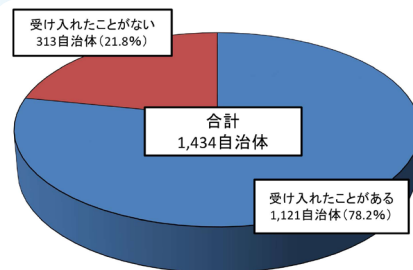
地方自治体が、都市部からの移住者を
「地域おこし協力隊」として任命し、農業・
漁業への従事、地域の魅力PR、お祭りや
イベントの運営など、様々な地域協力活動
を行いながらその地域への定住・定着を図
る総務省の取組です。

令和元年度は1,071自治体で5,466名
の方々が活動し、任期終了後も地域に定
住している方が大勢いらっしゃいます。

日本全国では、約7割の自治体が地域
おこし協力隊を受け入れております。

全国における地域おこし 協力隊の活動状況

地域おこし協力隊の受入れ経験の有無



（総務省調べ）

今月の特集は、地域おこし協力隊の任期を終え、新しい
スタートを迎える小林光一隊員への密着インタビューを
お送りします！

—地域おこし協力隊に応募したキッカケはなんですか？

小林：東日本大震災後、安全・安心な食べ物を食べるに
は自分でつくるしか手に入らないという考えに至り、環
境の良い土地で『農』のある暮らしをしたいという想い
が強くなり移住を考えました。

東京で移住フェアの催しに足を運んだ際に、働きなが
ら移住促進する「地域おこし協力隊」という制度を知
りました。この制度は各地方で多種多様な募集があり、
加計呂麻島で農業分野の一次産業や加工品開発に関わる
募集を見つけ、応募させていただきました。それまでは一
度も奄美大島へは来たことがありませんでしたし、今ま
での生活から大きな変化となり怖気づいたりもししまし
たが、思い切って決断し誰も知り合いのいない奄美大島へ
と家族でまいりました。

—地域おこし協力隊としてどのような活動を行ってき
ましたか？

小林：活動中を思い返すと、農林課職員とともに農家さ
んの訪問、研修会や品評会等へ参加させてもらいながら
瀬戸内町の農産物について学ぶことができました。その
中で多くの農家さんと知り合い、「援農」という貴重な
体験、勉強もさせていただきました。

また、加計呂麻島のいっちゃんむん市場の広報や、お店の方と協力
し農産物を出荷している生産者さんの顔写真を載せたボードなどを
お店に設置したりと、いっちゃんむん市場のスタッフにはとてもお世
話になりました。

それから、使われていない畑や田んぼをお借りし、開墾からはじ
め、実際に自分で作物を育ててもみました。

前職がシステム関係の仕事をしていたこともあり、学校のICT支
援（先生、生徒達がパソコンを快適に使えるための支援等）をはじ
め、プログラミング教育（NAO ロボット、IB ブロック、レゴプロ
グラミング）の授業、個人的にはパソコン教室やホームページの作



荒れた土地を一から耕し田を再生させた小林さんと友人